

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経営学Ⅱ Business Administration II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
経営学Ⅰで学んだ人を対象に現代経営学の基礎理論と経営管理を学ぶ。まず、企業の利潤獲得を概観して企業の有るべき姿を考えた後、経営資源の問題を取りあげて経営資源の有効な利活用とその経営戦略展開について考える。次いで、現代社会と企業が当面する問題を認識し、ケース・スタディーを通じて、それら理論の学修を深め、応用力を高めつつ、将来の自分のキャリア・アップについて考える。				
授業の目標				
①企業の経営理念と行動原理を理解した上で、自己のキャリア形成を考える知識を修得できるようにする。 ②現代企業の利益獲得行動を考究し企業のあるべき姿に関する知識を修得できるようにする。 ③現代企業の組織的形態とマネージメントに関する知識を修得できるようにする。 ④国際的視野に立ち、必要な情報を収集・分析して自らの考えを説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義方式であるが出来るだけダイアログ方式を取り入れる。また、ケースメソッドを取り入れて、受講者の理解を深めたい。さらに、DVDなどの映像を視聴した後、グループ別ディスカッションを行う。				
学習の成果（学習成果）				
①企業の経営理念と行動原理を理解した上で、自己のキャリア形成を考える知識を修得できる。 ②現代企業の利益獲得行動を考究し企業のあるべき姿に関する知識を修得できる。 ③現代企業の組織的形態とマネージメントに関する知識を修得できる。 ④国際的視野に立ち、必要な情報を収集・分析して自らの考えを説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)、経営理念と経営戦略			
第2回目	経営目標としての利潤性の追求(利潤にまつわる悪いイメージ、新しい利潤概念の出現)、ポジショニングとSTOW分析			
第3回目	企業目標としての社会性の追求(新しい企業観出現の背景、新しい企業観と経営者)、成長・シェアマトリックス、経験曲線			
第4回目	企業目標としての利潤性と社会性の関係、競争の戦略(ファイブ・フォース)			
第5回目	補完財の支援と脅威を理解する。ケース・スタディーで学修を深める①			
第6回目	日本的企業の経営理念-長寿企業をモデル、バリュー・チェーン分析			

第7回目	企業の利用する経営資源(経営資源とは、ヒト、モノ、カネ、情報、スピード、知恵)、イノベーション	
第8回目	新たな経営資源の登場(企業文化、技術)、破壊的イノベーション、小テスト	
第9回目	経営資源の問題領域と特徴(経営資源の獲得と分配、時代の変遷と経営資源の変化)、ケース・スタディーで学修を深める②	
第10回目	経営資源の獲得・利用・蓄積・分配、イノベーション戦略	
第11回目	企業の管理①(企業の管理、経営機能の分化)、学習する組織(SECIモデル)	
第12回目	企業の管理②(マネジメントの過程)、ケース・スタディーで学修を深める③	
第13回目	企業における組織づくり①(企業における作業の分化、経営機能の分化、組織の原則)、経営資源の分析(VRIN framework)	
第14回目	企業における組織づくり②(企業における組織の基本的形態)、Business Model	
第15回目	大企業における新しい組織形態	
事前・事後学習	日頃、ネットやTVの経済ニュースを見ること。講義での疑問点は、オフィスアワー時に担当教員に質問して、次のまでに解決しておくこと。学習した経営学の知識を活用して、自己のキャリア形成を考えること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	20%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験	20%	期末記述試験
発表内容(態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
教科書 片岡信之編 『はじめて学ぶ人のための経営学ver.2』 文真堂、三谷宏治『経営戦略全史』(株)ディスカヴァー・テューエンティワン(978-4-7993-1313-8)及び長江庸泰作成の“デジタルテキスト[経営学II 2019年度版]”を活用する。		
履修上の留意点・ルール		
<p>●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年)</p> <p>本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。</p>		